



活動を始める一歩を応援「コトハジメ」

12月は寄付月間(Giving December) 欲しい未来を考えよう

12月1日～31日は寄付月間です。寄付月間とは、NPO、企業、行政などが推進委員会を設置し、全国規模で行われる寄付推進の啓発キャンペーン。寄付について考え、行動しようと2015年から始まりました。寄付月間中には、寄付について学べるシンポジウムやセミナーが各地で開催されます。お金で寄付する他にも、イベントに参加するなど「行動で寄付する」、古本や書き損じはがき、小型家電リサイクルなど「もので寄付する」…さまざまな方法があります。

寄付月間にアクションしてみませんか？

欲しい未来へ、
寄付を贈ろう。  Giving December
寄付月間



寄付月間2023-Giving December-

「#寄付月間」タグをつけてあなたの寄付月間をX(Twitter)でつぶやき、寄付月間を盛り上げていきましょう。SNSで発信したり、情報をシェアしたり「いいね」することもアクションのひとつです。



活動に役立つ書籍を紹介「お役立ち本」

世界を変えるための50の小さな革命

気候変動、貧富の格差、テロや紛争の激化などの危機に対し、私たちには何ができるでしょう。本書は「小さな革命」として、普段はやろうと思わないことから、日常生活を見直すチャレンジを提案しています。例えば「スマホなしで待ち合わせをしよう」「1週間、80年代のように暮らそう」など。一見、問題解決に関係がないと思われる提案も、実行してみれば、危機回避に向けた革命だったと気づくことができます。

著者:ピエルドメニコ・バッカラリオ フェデリコ・タッディア 発行所:太郎次郎社エディタス



仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。
「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 12月13日(水)、27日(水)
年末年始の休館日 12月29日(金)～1月3日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日本曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>



活動を始める一歩を応援「コトハジメ」

使わなくなったタオル 寄付して活かそう！

学生服リユースShopさくらや仙台店は、家庭で使わなくなったタオルを回収し、雑巾にして県内の小学校に贈る取り組みを宮城県立支援学校岩沼高等学園と連携しながら行っています。タオルを再利用できる取り組みに参加してみませんか。

「雑巾で学校(せかい)を救う！大作戦」

●タオルの種類

洗濯していれば、使用済みのものでOK。タオルの色は不問。新品・未使用タオルは大歓迎。

●回収ポストの設置場所

さくらや仙台店店頭ほか宮城県内の協力施設・店舗など約20カ所。詳しくは回収ポストMAPにて。

※「制服回収ポスト」と表記されたポストに入れてもOK!

▲回収ポストMAP
(さくらや仙台店HP)

活動に役立つ書籍を紹介「お役立ち本」

世界を変えるための50の小さな革命

気候変動、貧富の格差、テロや紛争の激化などの危機に対し、私たちには何ができるでしょう。本書は「小さな革命」として、普段はやろうと思わないことから、日常生活を見直すチャレンジを提案しています。例えば「スマホなしで待ち合わせをしよう」「1週間、80年代のように暮らそう」など。一見、問題解決に関係がないと思われる提案も、実行してみれば、危機回避に向けた革命だったと気づくことができます。

著者:ピエルドメニコ・バッカラリオ フェデリコ・タッディア 発行所:太郎次郎社エディタス

つながる つなげる サポセン

「ぱれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の
様子やこぼれ話を配信しています。



編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者:特定非営利活動法人

せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2023年12月1日

デザイン PEACE Inc.

[X(エックス)] [YouTube]

@SCSC4CA サポセンちゃんねる



ぱれっと

12

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

特集

毎日の生活に「楽しい」をプラスする
七北田公園の魅力向上を目指して

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が發揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いが込められています。



一步踏み出す気持ち芽生える「ワクワクビト」

「ないならつくろう」 行動から広がっていく人と街

おはなしの喫茶室

あいさわ かおる
相澤 郁さん(43)

アマチュア文芸作家のオリジナル作品の発表の場と、アートと文芸などの異分野クリエイターの交流の場「ブックハンターセンダイ」では、個人が作成して発行する多様な冊子や本が並びます。実際に手に取ってみることで「自分も作ってみたい」と思い、翌年に作成者として参加するようになる人もいます。

「物語を書く、本を作るというのは、一部の限られた人のものではなく、誰にでも開かれたもの」と話すのは、企画運営者のひとり相澤郁さん。自身も物語を書き、本に仕立てる作家です。子どもの頃の人形遊びで物語を創作し始め、成長してからも物語を作るのが趣味になりました。また、大人になって参加した手製本ワークショップがきっかけで、自分で本を作る楽しみも知りました。

仕事の傍ら作家活動をする相澤さんには、気になることがありました。音楽好きのための「ジャズフェス」、工芸品や手芸品好きのための「クラフトフェア」など、仙台には多様なイベントがあるのに、オリジナル作品を創作する文芸愛好家のためのイベントがないことです。「ないならつくろう」。準備期間として市民が開く様々なイベントに参加し、いろいろな人と出会い、仲間もできました。「仕事と生活だけだったら出会えなかった。人情のある街、そういう街で暮らしているんだ」と、街も好きになっていきました。また、無審査の美術展「アンデパンダン展」で色ん



な表現を目にして「まさり合ったら面白いものができるのではないか?」と、絵や写真などのアート作品から物語が、逆に物語から他の作品が生まれる相互作用を期待し、文芸作家以外のクリエイターとの交流もブックハンターセンダイの企画に取り入れることに。2019年に第1回目のブックハンターセンダイを開催し、2020年以降のコロナ禍でも可能な形を探って開催し続けました。

「経済状況や社会情勢など不安なニュースもありますが、市民の文化の火を絶やさないための取り組みのひとつでありたい」と、今年もブックハンターセンダイを開催します。



▲webで募ったみんなのおすすめ本を紹介。気になる本、読んでみたい本を見つける楽しみがあります。

▲会場には、作家が自分で作った本が並びます。

ブックハンターセンダイ

Mail bukhansendai@gmail.com

HP▶



ブックハンターセンダイ Vol.5

日時:2023年12月2日・3日11:00～16:00（入場15:30まで）
会場:ギャラリーチフリグリ 入場無料

協働による活動事例を紹介「ちまたのコラボ」

特集

毎日の生活に「楽しい」をプラスする 七北田公園の魅力向上を目指して

地下鉄南北線の泉中央駅から徒歩5分程の場所にある七北田公園は、広大な芝生広場や、大型遊具、噴水などがあり、四季折々の自然あふれる市民憩いの場です。都市緑化の推進を目的に行われた全国巡回の博覧会「'89グリーンフェアせんだい」の跡地を再整備する形で33年前に開園しました。これからも長く市民に愛され続ける公園にしていくために、今年度からスタートした協働の取り組みをご紹介します。



仙台市 建設局
百年の杜推進部公園管理課

主幹兼係長(写真右)
ふりはたけんたろう
降幡 賢太郎さん
技師(写真左)
さいとうともき
齊藤 友記さん

七北田公園に新しい魅力が加わるカフェ

2023年5月18日～11月30日、七北田公園に期間限定のカフェ「NANA+ICHICafe」がオープンしました。このカフェは、仙台市建設局公園管理課(以下、公園管理課)と、7DAYS, Peace.(七北田公園活性化協議会)(以下、7DAYS)による社会実験としてスタートした取り組みです。七北田公園の魅力を知ってもらい、新規来園者・リピーターを増やすための試みとしてカフェを開き、来園者数や回遊パターン、地域への波及効果を分析しました。

公園管理課では、2022年3月に策定された「仙台市公園マネジメント方針」に基づき、都市の賑わい創出を目指す中で、公園の魅力の向上や、新たなサービスを図っていました。その中で七北田公園における課題として認識していたのが、市民活動やイベント実施による利用の少なさ、飲食サービスなど新たな利用者ニーズへの対応です。そこで、市民活動団体等と仙台市が協働で地域の課題解決に取り組む「仙台市市民協働事業提案制度」を活用し、市民の視点による事業アイデアを募集。7DAYSが提案を持込み、両者による協働が実現しました。



▲カフェ設置前の様子

7DAYS, Peace.(七北田公園活性化協議会)



代表理事(写真左)
うえき てつろう
植木 徹郎さん
理事(写真中央)
かまた ゆう
鎌田 侑さん
理事(写真右)
さたけ わたる
佐竹 亘さん

カフェを拠点に市民の手で公園の魅力を再発掘&アップデート！



カフェが開かれた場所は、公園入り口から遠く、以前は人通りが少なかった奥のエリアです。それにもかかわらず、家族連れやカップル、ひとりでゆっくり過ごす人、犬の散歩途中の休憩に立ち寄るなど多くの人が訪れ、一日にコーヒーが200杯売れたことも。また、「この場所にカフェがあったらいいなと思っていた」と地域の人から歓迎の声が多く寄せられました。公園管理課の降幡賢太郎さんは、「行政だけの考えだったらこの場所を選ばなかったと思う。閑静で自然に囲まれた抜群のロケーションの魅力を再発見できたのは、7DAYSの視点が加わったおかげ」と話します。

事業者の視点と、地域への愛ゆえの挑戦

「都心にありながら、豊かな自然を満喫できる七北田公園は、市民にとって誇るべき場所」と語るのは、7DAYS代表理事の植木徹郎さんです。一般社団法人泉青年会議所OBが中心となり設立した7DAYSは、2020年から七北田公園で「IZUMIパークデイ」を開催するなど、地域の企業と連携しながら公園や地域を盛り上げてきました。公園をよく知るからこそ課題に感じてきたのは、広大であるがゆえに、入り口付近や大型遊具があるエリアにばかり人が集中し、奥まで足が運ばれていないこと。「休憩しながら公園の自然をのんびり眺められる場所があつたら、もっと多くの人に魅力が伝わるはず」と考えた植木さん。その熱意に応えるように、思いを同じくした仲間や企業がカフェの建築や、木材の確保、電気工事、植栽などの協力を申し出ました。

困難な道のりでも、少しずつ形に

7DAYSが目指したのは、これまで七北田公園内で設置例のあった数日限りのキッチンカーではなく、奥エリアの回遊性を高めるための拠点としてのカフェです。また、冷蔵や調理には電気が欠かせませんが、



▲夜カフェ営業の様子



▲市民参加企画のフリーマーケット



▲市民の手により制作されたカフェ花壇

「いいね」が寄せされました。

市民の手で愛され続いている場所へ

「もっとこんな公園になったら良いのに」。そんな市民の思いが形になった取り組みが今後も続いていくために、7DAYSの佐竹亘さんは「自分たちの他にも、地域のために動いていく人を増やしたい」と話します。学生に企画をさせてみたり、キッチンカーの出店ルールを明確にしたり、地域の人が関わっていけるような仕組みをつくっています。

最新情報はHPか
Instagramからご確認ください。

7DAYS, Peace.
(七北田公園活性化協議会)



▲Instagram

▲HP